

## 明治・大正・昭和、そして平成～令和

レンガ造り二階建てのこの建物は、前面と側面を走る道路の交差に合わせた鋭角で形成されており、その先端には三階部分まで伸びた円形の塔が配置され、堂々とした風格が感じられます。

建物の平面は異形の四角形で、海岸通り側ともう一方の交わる道路側に向けてそれぞれ建物の中央に玄関を持っています。

デザインは、レンガの柱型とその間の三連の窓を抱き込む石造りの部分が垂直の流れを強調し、全体の形を美しく調和させています。

現在、若松に残された近代建築の中でも当時の勇姿と華やかな外観を残しています。



これまで

- ◆北九州市都市景観賞(平成18(2006)年)
  - ◆BELCA賞  
(国内有数の建築物表彰:平成19(2007)年)
  - ◆近代化産業遺産認定(平成19(2007)年)
  - ◆国有形文化財登録(平成20(2008)年)
  - ◆日本遺産認定(平成29(2017)年) など
- 歴史・建築的価値が広く認められています。



### 利用案内

- ◆開館時間/午前9時～午後5時  
※但し、多目的ホール及び会議室は午後10時まで(要予約)
- ◆休館日/毎週火曜日、年末年始
- ◆入館料/無料

### 交通

- ◆JR若松駅より徒歩約5分
- ◆若戸渡船若松渡場より徒歩約2分
- ◆北九州市高速 小倉駅北ランプより車約20分
- ◆北九州市高速 黒崎ランプより車約40分



北九州市 旧古河鉱業若松ビル  
〒808-0034  
北九州市若松区本町1丁目11-18  
TEL/FAX. 093-752-3387



# Former Furukawa Mining Wakamatsu Building

北九州市

## 旧古河鉱業若松ビル

施設のご案内



## 南海岸通りと旧古河鉱業若松ビル

江戸時代の中期から年貢米や炭石(石炭)の積出港であった若松は、明治以降、日本の近代化と共に筑豊炭田の大規模開発・鉄道の敷設・若松港の築港等を経て、日本の有数の石炭集散地になりました。それに伴い、南海岸通りに面した若松南海岸通りには、石炭関連会社や海運会社の支店・営業所等が軒を連ね、近代的なオフィス街が形成されました。



旧古河鉱業若松ビルもその一つで、明治中期から筑豊・門司・若松に遡出した古河鉱業(株)の〇〇支店として大正8(1919)年に竣工し、昭和19(1944)年まで、石炭の受払等の業務が行われていました。

その後は、他社の事業所として使用されてきましたが、平成9(1997)年には、入居者もいなくなり、建物の老朽化も進んだ結果、解体が検討されていましたが、地元では、建物保存を求める4万6,000人を超える署名や7,400万円あまりの寄付承諾書が集まりました。

このような地元からの熱意を受け北九州市は、学術的な調査(平成12～13年)、保存改修工事(平成15～16年)を行い、平成16年9月に新たな観光施設・コミュニティホールとして開館することとなりました。

